

様式13

会派視察研修計画書

令和2年7月27日

碧南市議会議長 様

会派名 公明党

代表者名 加藤厚雄 印

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

参加議員	大竹 敦子		
日時	令和2年 8月18日（火）		
視察先	名古屋市 金山Branch 名古屋市子ども・若者・総合相談センター		
研修内容	金山Branch視察		
日程	日時：8月18日（火）13時から14時30分 場所：名古屋市 名古屋市子ども・若者・総合センター 金山Branch		
交通手段	<input checked="" type="checkbox"/> 公共交通機関 (電車・新幹線)	<input type="checkbox"/> 公共交通機関 (飛行機)	<input type="checkbox"/> 自家用車

※該当するものにチェック☑してください

様式14

会派視察研修報告書

令和 3年 2月 8日

碧南市議会議長 様

会派名 公明党

代表者名 加藤厚雄 印

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員 1人 分の視察研修報告書を添付いたします。

参加議員	大竹敦子
日時	令和 2年 8月18日（火）
視察先	名古屋市
研修内容	金山Branch 名古屋市子ども・若者総合相談センター
視察先面会者 又は講師名等	金山Branch 名古屋市子ども・若者総合相談センター 永井文子センター長 名古屋市子ども青年局子ども未来企画部青少年家庭課 奥山淳子課長 越竜司青少年自立係長 平井彩香係
備考	

※ 相手方から收受した資料の写しを添付してください。

会派視察研修成果報告書

令和 3年 2月 8日

議員氏名 大 竹 敦 子 印

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- | | |
|----------|----------------|
| 1 期 間 | 令和 2年 8月18日（火） |
| 2 視察先 | 名古屋市 |
| 3 視察の種類 | 先進地視察 |
| 4 視察の成果等 | |

「名古屋市 子ども・若者総合相談センター」の取り組みについて

概要

名古屋市では、平成25年6月、社会生活を営む上で困難を有する子ども・若者がま
ず駆け込むことができ、あらゆる相談に応じて支援できる伴奏型相談支援を行う総合機
関として「子ども・若者育成支援推進法」第13条に基づき、市内在住の概ね39歳まで
の子ども・若者とその保護者を対象とした相談をワンストップサービスで行う「名古屋
市子ども・若者総合相談センター」を名古屋市教育館8階に本部を置き、開設した。

この事業は、令和2年度の予算1億7,191万4千円で「よりそいネットワーク名
古屋コンソーシアム」へ民間委託し、様々な困難を抱える子ども・若者の状況に応じた
支援を行い、自立への取り組みを進めている。相談体制は、社会福祉士、精神保健福祉
士、産業カウンセラー、公認心理士、キャリアコンサルタント、保育士、教師などから
なる常勤の職員20名、非常勤としてSNSの「LINE相談」の対応をする16名で
構成されている。そのほか、専門性の高い法律相談も7名の弁護士により行っている。

また、困りごとを抱えた一人ひとりに合わせて、家庭訪問、面談・おしゃべり、同行
支援、居場所・プログラムへの参加などの活動をするため、市民ボランティアによる「よ
りそいサポーター」がオーダーメイドのチームを作り、週1回の「クラフトランド」「こ
わかスタディランド」、月1回の「イラストランド」他にも「アニメ会」「野球女子会」
「おとなしめ女子会」など相談者の希望に合わせたグループ活動も行っている。

この他、来所、電話では相談に結びつきにくい若者の早期発見、早期介入のため、月
曜日から土曜日の17:30～21:30に「LINE相談」を実施している。

効果および課題

相談者実数	----	790人	のべ相談数	----	9,076件
連携機関数	----	296機関	のべ連携機関数	----	3,270機関件
ケース会議	----	652回	アウトリーチ	----	1,715件
よりそいサポーター稼働数	----	619件			

相談者は、20歳未満が半数あり、毎年増加傾向にある。相談内容は、引きこもり、不登校が多く、母親からの相談が最も多くなっている。相談者は増加しているもののまだ氷山の一角であり、1万人から1万3千人のひきこもりの方がいると推測されている。そうしたSOSを出せない方の掘り起こしが課題である。

「金山Branch」について

概要

「金山ランチ」は、子ども・若者総合相談センターの相談件数が増加する中、市南部方面の支部として2カ所目の拠点として、オープン型交流スペースとして開設した。場所は学校帰りや仕事帰りに利用しやすい交通の利便性の良い金山駅から徒歩3分のビルの2階と3階で、開館時間を14時から21時までとし、若者が気軽に利用できる環境を整えている。若者本人からの相談を増やし、支援につなげていくことで困難の重篤化を防ぐことが狙いである。

内容

受付は2階にあり、主に2階は、一人で休息したり、気分を落ち着かせたり、自習をするなど、ひとりひとりの目的に応じた過ごし方ができるようになっている。

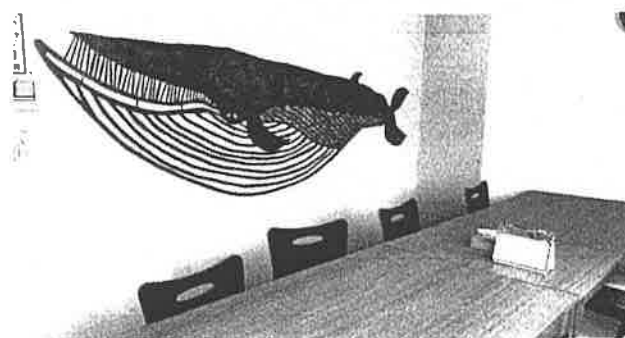


ソーシャルディスタンスを取り、
楽しくおしゃべりができる。



ゆったりできるハンモックスペース

3階には、悩みごとの相談や会議などができる部屋があり、それぞれの部屋には壁や内装により、雰囲気を変えるなど利用者がくつろげるよう工夫がされている。



効果

ここでは、新しい仲間との出会いなど新たなはじまりをそつと後押しする場として、他者と交流することができている。支援員との信頼関係ができ、支援につなぐことができている。

提言

「金山ランチ」をはじめ、「名古屋市子ども・若者総合相談センター」の取り組みは、困難を抱える子どもや若者に対して、本人の希望に合わせてきめ細かな支援がプログラムされていて大変素晴らしい取り組みであると感じた。

碧南市においては、へきなん福祉センター「あいくる」の2階の碧南市心身障害者福祉センター内に「ころころ」という居場所が開設されている。現状、障がいのある方々への居場所としては機能を果たしていると感じているが、ニート、引きこもりなど社会生活に困難を感じている子ども・若者への居場所としては十分な居場所になっているか疑問である。

毎週木曜日にイベントも企画されているが、それは利用者が合わせて参加する内容ではないだろうか。まだまだ一人一人のニーズに応えるには、その内容面で不十分に感じている。その理由として、利用者の年齢、状況は様々であり、よりきめ細かな支援が必要であり、ひとりひとりが他人との関係性を持つきっかけとなる社会へ自立して踏み出せる場所となっていないと感じるからである。

「金山ランチ」での名古屋市の取り組みは、利用者ひとりひとりの希望、それがたった一人のためでも、一歩踏み出すためのプログラムを作り、ボランティアの力を借り、ひとりに寄り添って進められている。そこが碧南市とは一線を画すところで、大きな違いである。

今回の視察では、名古屋市の取り組みは、目からうろこで、こんな大変素晴らしい取り組み方法があることを知った。碧南市にも場所はあるので、内容面での充実を図り、そうした取り組みが碧南市でもできれば、大変画期的でとても喜ばしいことと感じる。ぜひ、前向きに検討を進めていただきたい。